

卵巣癌におけるマイクロ RNA と予後の関連性について

1. 研究の対象

当院において 1983 年 1 月 1 日～2019 年 12 月 31 日までの間に当院で初回治療を受けた卵巣癌の患者さんが対象となります。

2. 研究目的・方法

卵巣癌は最も死亡率の高い婦人科癌であり、プラチナ製剤、タキサン製剤の誕生により生存率の改善はある程度確認できたものの、多くの場合 2 年以内に再発しやがては化学療法耐性となり予後不良です。そのため新しい治療法の開発や、臨床上有用なマーカーの発見、さらには新規治療標的の同定は急務です。近年マイクロ RNA(miRNA)の研究が様々な癌腫で盛んに行われるようになってきました。miRNA とはタンパク質に翻訳されない 20 塩基対程度の RNA で、タンパク質を翻訳している遺伝子の発現制御をおこない、細胞増殖やアポトーシスに深く関わっていると考えられています。卵巣癌においても特定の miRNA が予後と相関するものがいくつか報告されています。miRNA を評価する方法は、定性的な ISH による方法や定量的なリアルタイム PCR 検査によるものがあります。測定する方法も、組織検体や腹水、血清など miRNA は様々なものから抽出される可能性があります。

今回、卵巣癌における miRNA が予後に与える影響やその評価方法、得られた複数の検体で違いがあるのかなどを検討します。研究期間は 2027 年(令和 7 年)12 月 31 日までを予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

既に摘出・作成された病理組織を研究に用います。また診療録（カルテ）から病気の発症日（診断日）から死亡・再発・増悪までの期間、治療内容、抗癌剤治療の有無とその効果、癌のひろがり（進行期）、その他日常診療で得られた年齢や身長・体重などの臨床データ及び腫瘍マーカー等の検査データ等を採取し解析する予定です。使用する試料・情報については、すべて匿名化し、個人が特定できないようにしてから利用します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先かつ研究責任者：

防衛医科大学病院 産科婦人科 講師 宮本 守員

住所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

TEL：04-2995-1211（代表）内線：2363